

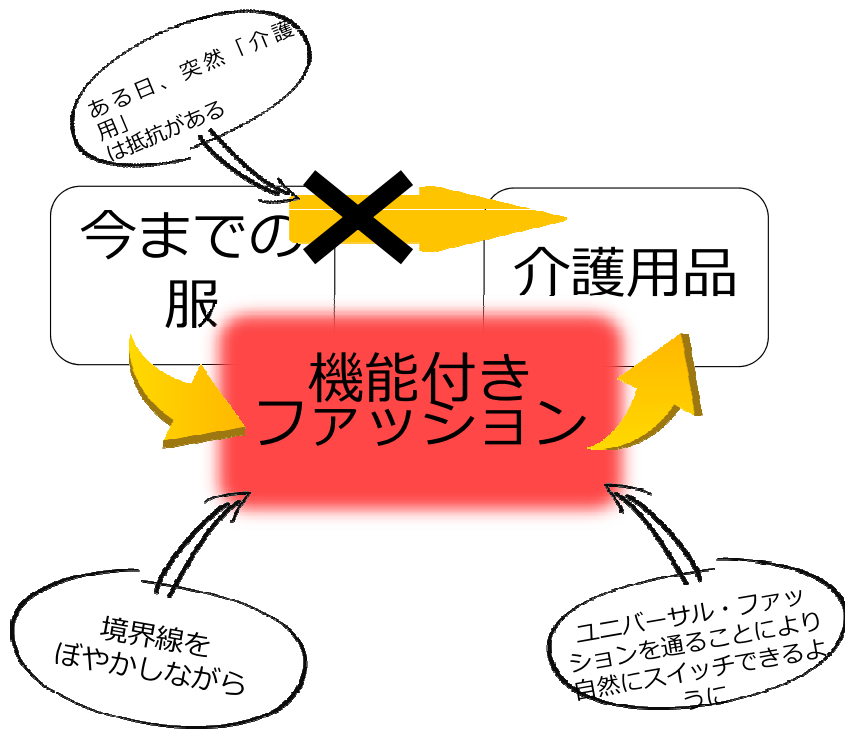
介護、医療現場における ファッションの役割

– Narrative Based Approachとユニバーサルファッション–

名美アパレル株式会社
前野いずみ

【 Chiaretta商品 】

機能付き（ユニバーサル）ファッションとは・・・



アイデアの詰まった洋服で「豊かで上質な日常生活」を送るためのツール

【はじめに】

「衣・食・住」の「衣」について

なぜ、最初が「衣」なのか？

それは・・・

衣服とは

動物の中で唯一人間だけに与えられたもの

「人間は社会的動物である」 ※1

- 社会性の獲得

ファッション(衣服)の重要視されるべき点は、そのコミュニケーション性である。

どのような人物なのか？ どのような価値観なのか？
どのような感性を持っているのか？ どれくらいの社会的地位であるのか？

衣服は如実に物語る。

衣服を身に着けることから社会性が始まるとも言えるだろう。

※2

要するに

「衣：洋服を着る」ということは、
社会への参加である。 ※3

だから・・・

何か着ていれば何でも良い。

というわけではない！

今年の本題はココから！

【ナラティブ Narrative とは】

近年、介護・医療
現場で注目されて
いる

- 語り、物語、叙述的な、などと直訳される。
- エビデンス（科学的根拠等）によるものではなく、自分史や生活史等を参考にその人を理解し、本人、つまり「人」を中心に据えた支援の在り方。
- 近年注目される支援の形としてナラティブ・ベースド・アプローチ、ナラティブ・セラピー、ナラティブ・ベースド・ナーシング、ナラティブ・ベースド・メディスン等がある。

【自分史を用いた看護介入の例】

「老人保健施設入所者への生活史聴取とナラティブベースト・ナーシング」

2006年6月 長崎大学（当時）鷹居樹八子 他※4

- 老人保健施設入所中の健康障害を持つ高齢者4名に生活史聴取を用いた看護介入を行った。（内1名は途中体調不良により本人の申し出により聴取を中止）
- 実施した3事例に表情の変化、日常生活の活動力や意欲に変化が見られ、看護問題の解決にいたった。
- 過去を振り返ることで、自尊感情を高め自己肯定が見られ、生きる力を強め、問題解決によい影響を与えた。
- 看護・介護職員においても、対象者への個別理解を深化させ、ケアに活かせる個人場情報を与え、個別ケア実施のきっかけを与えた。
- 相互関係が深化され、職員の老年者観も肯定的なものに変化した。

【洋服が与える影響について事例紹介】

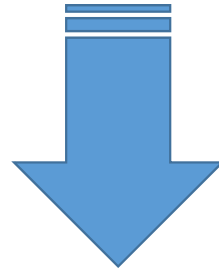
- 老人ホームで暮らすA氏（女性：軽度認知症）の事例 -

A氏の現状（2017年3月取材当時）

- 子供の無い夫婦、ご主人に先立たれ、甥夫婦が後見人である。
- 甥夫婦の自宅近くの老人ホームで暮らしている。
- オムツいじりを頻繁にする。

B氏（甥の嫁：主にA氏のお世話をしている）の悩み

「A氏のオムツいじり」



- オムツいじりをする事により、オムツが外れてしまい体や衣服、寝具を汚してしまうことによる衛生面と本人の不快。
- 何か訴えたいことがあるのか？ その代償行動※5なのか？ 答えが見つからない自分への苛立ち。
- 介護スタッフに余分な手間を掛けてしまうとい後ろめたさ。

【試作と観察】

A氏(本人)に事情聴取	
質問	答え
なぜ、よく手を洋服の中へ入れてしまうのか？	(本人曰はく) 寒いから。
A氏(本人)への試みと観察	
内容	結果
1. ウエストから手を入れないようチュニックを着用させた。	<ul style="list-style-type: none">• めくり上げてオムツいじり。• AH(袖ぐり)から手を入れてオムツいじり。
2. AHが大きくないチュニックの裾に釦を付けてパンツ風に。	<ul style="list-style-type: none">• オムツに手は行かなくなったが、無理やり引張り上げて気づけばコマネ手状態。• 手が入られる場所をひたすら探す。
3. 2.のチュニックのお腹部分に大き目ポケットを付ける。(ドラえもん風)	<ul style="list-style-type: none">• 手を入れる場所ができたことで落ち着いた。

試作製品



9,FEB,2018

Copyright © 2018 MEIBI APPAREL Co.,Ltd. All Rights Reserved.

【結果・変化】 試作の洋服を着用した結果

A氏	<ul style="list-style-type: none">• 家族（親戚）が訪ねてくる ➡ 嬉しい。• お洒落で新しい洋服が増えた ➡ 「素敵」「可愛い」という新鮮な気持ちになる。• 施設スタッフや友人が「いいね」と声を掛けてくれる ➡ コミュニケーションが増える。（他者承認欲求が満たされる）
B氏	<ul style="list-style-type: none">• オムツいじりが無くなり「A氏のQOLの向上」と「施設スタッフへの気兼ね」が減少した。• 既に嚥下食であることから「食べる」楽しみが無い中で、「お洒落」という楽しみを与えられた。• 家族の愛情や想いを「ファッション」という形で伝えることができた。具体的に表現することができた。
施設 スタッフ	<ul style="list-style-type: none">• A氏の洋服の好みや関連する趣味趣向を知ることができ、それをきっかけにA氏をより深く理解することができ、ナラティブ・アプローチ(2015結城※6、2002.鷹居 樹八子他※4)に繋がる可能性が見えた。• オムツいじりによるお世話の負担軽減。

【考察】 - 介護・医療の現場におけるファッションの役割とは -

1. 洋服（ファッション）は身体機能の低下や問題行動を根本的に解決することはできないが、お洒落をすることで心を潤し、気持ちを前向きにし、本人のQOLやADLの向上に役立つ。
2. 洋服（ファッション）とは、家族の想いを形にして、寄り添い、ゴールの見えない介護生活の中で、ひとつの「**解決の形**」になっているのではないか。
3. 受け入れ側の施設等も、本人の趣味趣向やどのような為人（ひととなり）なのかを知るきっかけとなり、それまで以上に深い理解と絆を持って、日々のお世話をすることができるのではないか。

【課題】

「介護＝個別性が高い」と「ファッション＝嗜好性が強い」

という「難しい要素」と「難しい要素」を掛け合わせた製品をいかに**最大公約数を見出し、商品化し、既製品として流通に乗せるか？**

どれだけ良い製品があっても、流通しなければ意味がない。

【まとめ】

介護、医療現場においてファッションとは、人が人として、大人が大人として生活するために必要なエッセンスであり、その人の為人（ひととなり）を知り、その人に寄り添った支援や、その人らしい治療を見つける助けとなり、ひいてはその人らしい人生を送るために欠くことのできない道具の一つであると思う。

そして同時に、ファッションが人の暮らしに彩を添え、いくつになっても、どのような状態になっても、豊かで上質な日常生活を送るためのアイテムであると信じている。

【参考文献他】

- ◆ ※1～3 Thinking-Puddle
- ◆ ※4 老人保健施設入所者への生活史聴取とナラティブベースト・ナーシング（2002.鷹居 樹八子他）
- ◆ ※5 アドラー心理学のカウンセリング技法
- ◆ ※6 結城俊哉 2015社会実践における「ナラティブ(語り)研究」の可能性の検討
～臨床研究における質的研究の方法論として～
- ◆ アドラー心理学の代替案(alternatives)・代償行動(substitution)と補償：ESDV Words Labo
- ◆ HEALTHリテラシー「健康を決める力」

ご清聴ありがとうございました。

<(_ _)>